

研究主題 「一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育の推進」に関する本校の実践

学校名 蓮田市立黒浜小学校

教師と児童生徒の信頼関係を築くために、あるいは、いじめ・暴力行為・不登校等の生徒指導上の課題を解決するために、小・中連携（小中一貫）をとおして具体的にどのような取組をしているか。

1 はじめに

本校は、蓮田市東部に位置し、児童数419名、学級数15の中規模校である。開校百年を超える伝統校であり、保護者も本校の卒業生であることが多い。幹線道路周辺など新興住宅地が増えつつある地域もあるが、学区内に森林や緑のトラスト指定地にもなっている黒浜沼など豊かな自然が多く残っている。どの学年の児童も毎日嬉々として登校し、休み時間には元気に外遊びをしている姿を見ることができる。保護者も学校教育に対し大変協力的であり、PTA活動も盛んである。年に2回の親子クリーン作戦やバザーの他、黒浜ウォークラリーなどの学校行事にも積極的に参加していただき、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を目指し取り組んでいる。



本校では学校教育目標である『人間性豊かな子』の実現を目指し、以下のような手立てを持って、全職員英知を結集し一人一人の児童の健全育成の推進に努めている。

2 本校の取り組み

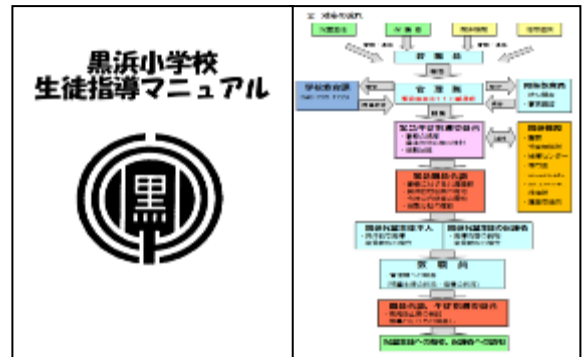
(1) 校内生徒指導体制の充実

①「黒浜小よい子のきまり」の検討、共通理解→小中連絡会で協議していく予定

年度当初に学校内外での生活の約束を確認し、共通理解のもと生徒指導にあたる。生徒指導上の重点目標についての確認や学級での振り返りに活用できるようにする。また、校庭の使用の注意事項については各教室に掲示し、事故予防に努める。

②「黒浜小生徒指導マニュアル」の作成、共通理解

様々な問題行動は、初期対応の是非によりその後の経過や結果に影響が表れ、解決までの時間に大きく左右される。そこで、児童の問題行動等の初期対応をまとめた生徒指導マニュアルを全教職員に配布し、共通理解を図る。早期発見、早期対応を図るための組織体制の構築を積極的に推進する。



③生徒指導委員会の定例化

定期的に生徒指導委員会を開き、全校に関わる課題の把握や、対策について話し合う。また、職員会議時に生徒指導に関わる報告会を実施し、円滑な報告、連絡、相談体制作りを推進している。報告会の内容は、生徒指導ファイルに随時記録し、次年度以降へも引き継ぎがスムーズにできるようにする。

生徒指導関係 連絡事項

日時	学年・班	名称	配慮事項・事故・対応など

(2) 児童理解を基盤とした積極的な生徒指導の充実

①教室環境、校内の掲示物の工夫

今年度の重点目標を「気持ちのよいあいさつ」「廊下歩行」「靴のかかとそろえ」と設定した。そこで、下駄箱や職員室前、各教室等の掲示物を工夫し、日常生活の中で、基本的な生活週間が身につくよう指導している。また、各教科、人権教育とも連携し、児童の作品など積極的に展示するなどし、豊かな言語環境の整備を目指している。



②あいさつ運動の実施

教職員と児童、そして保護者が校門の前に立ち、あいさつ運動を実施している。児童との積極的なコミュニケーションを通じて、あいさつへの意識向上を図っている。



③「靴そろえ、世界一」をめざして

「靴そろえ、世界一」を合い言葉に共通理解のもと指導にあたっている。毎週金曜日に靴そろえの優秀クラスを発表している。それが、児童の自己評価及び励みとなり、よい行動につながっている。



④学習・生活の振り返り

毎月末に、教育に関する3つの達成目標「規律ある態度」に照らした項目について、一人一人が振り返りカードを使って、自己評価を行っている。自分を見つめることで、次の月は、更によりよい行動ができるように、意欲化を図っている。また、担任は学級の状況を把握し、日々の指導に生かしている。

⑤体験活動を多く取り入れた学習活動、豊かな心を育む学校行事の充実

児童を多面的に理解し、その良さを伸ばし、健全な自己意識を育むことは生徒指導の中核である。児童一人一人が「できた」「のびた」という実感を味わうことができるよう、学習活動、学校行事の充実を図っている。確かな学力を育む授業実践を始め、栄養教諭や養護教諭等と連携した食育指導、保健指導など複数の目により児童のよさを掘り起こしていく。また、学校応援団とともに学ぶ総合的な学習の時間の充実、異学年集団による縦割り活動、黒浜ウォークラリーなど、学校行事でも心を育てる体験活動を積極的に取り入れている。



歯科衛生士による
歯みがき指導

黒浜ウォークラリー



5年生 黒浜沼の観察

おわりに

児童が落ち着いて自分の力を伸ばすためには、規律ある学校生活が確保されることが必要不可欠である。教師は問題行動等に目を向けがちであるが、一人一人のよさにも目を向け、多面的な理解を深めることが生徒指導の第一歩である。児童は認められたという思いを持ち、自分の居場所を見つけることができる。そして相手を思いやる心の余裕も生まれ、温かい気持ちに包まれた友人関係ができるのである。こうした児童と教師、児童相互の信頼関係こそが生徒指導上の問題の最大の予防策であり解決策であると考えられる。

各学級では、保護者との連携を深めようと毎週学級通信を発行したり、係活動やレクリエーションなど自主的な学級活動を充実させたりと担任それぞれのよさを生かした学級経営を進めている。日常の小さな実践の積み重ねこそが児童、保護者から信頼される学校づくりにつながるものである。日々の教育活動に誠実に向き合い、「黒浜小学校に学ぶすべての子どもたちが嬉々として登校し、夢といのちをはぐくみながら生き生きと活動する学校」を目指し全力を挙げて取り組んでいきたい。